ジネンコロキウム #21

自然（ジネン）と科学と文化と私たちを想ふ

触れることから世界は始まる

クリエーター・フロントエンドエンジニア

君塚史高

大学を卒業後、人材会社の営業として働いていたが、脱サラしてIAMAS（情報科芸術大学院大学）に進学。ARについて研究したのちに、面白法人カヤックにてエンジニアとして入社。Web、IoT、XR、VUIコンテンツの制作に励む。2018年に独立し、フリーランスのエンジニアとして、プログラムの受託開発を行いながら、個人でもデジタルコンテンツの制作を行なっている。最近の個人制作は、回転寿司で音楽を作るマシン「スシーケンサー」。

ビジネスプロデューサー

村田華蓮

2020年メーカーR&Dエンジニアとして入社。ヒューマンインタラクションの研究開発、特に立体音響を通じた新規体験創出に従事。経済産業省の「未来の教室」実証事業への参画を経験後、現在も新規事業開発に従事。またプライベートでは早稲田大学でMBAを取得しながら、農業や周辺体験/ビジネス提案を行う。学内コンペでの受賞歴もあり。

物理学者の 寺田寅彦 は、科学研究の実体験を持たずに科学を語る人を「“科学学”者」と呼びました。知識や情報がかつてない規模で流通する現代では、検索し、要約し、語ることは容易になりました。それによって、さまざまな分野で、誰もが実体験を持たないまま「“〇〇学”学者、”〇〇学”専門家」になることができます。「自分の身体で触れた経験」や、「試行錯誤の中で得られる実感」の存在感は、薄れていってしまうのでしょうか。

今回のジネンコロキウムでは、体験を軸にした「自分ごと化」学習に取り組むエンジニア／ビジネスプロデューサーの 村田華蓮 さん、そして、試行錯誤を重ねながら体験型インタフェースを生み出してきたクリエーター／フロントエンドエンジニアの 君塚史高さんをお招きし、それぞれの「体験」に対する思いを語っていただきます。

お二人の活動の中にある「触れること」「つくること」「体験すること」の意味を伺いながら、参加者のみなさんと共に、体験せずとも“学学者”になれてしまう時代における、人間の学びと創造のあり方について考えたいと思います。

2026.11.14（土）14:30-17:30

会場

横浜・みなとみらい PLOT48 テラス棟　1 階

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-3-1　PLOT48

みなとみらい線　新高島駅 2 番出口より徒歩 7 分　みなとみらい線　みなとみらい駅 3 番出口より徒歩 10 分

横浜市営地下鉄ブルーライン　高島町駅　2 番出口より徒歩 10 分

JR 東海道線　横須賀線　京浜東北線　東横線　相鉄線　京急線　横浜駅　東口より徒歩 20 分

JR 根岸線　横浜市営地下鉄ブルーライン　桜木町駅より徒歩 20 分



参加

https://jinencollquiem21.peatix.com/

一般：¥3,000　会員：¥1,000　学生：無料

定員 50 名

主催：ジネンコロキウム事務局

協力：BankART1929　株式会社横浜都市みらい

ジネンコロキウムとは

自然科学、歴史、アート、社会、文化など多分野の知を交差させ、好奇心を広げる対話の場です。毎回異なるテーマに沿って、専門性の高い話題提供者からの領域を超えた知識資産を共有しながら、インタラクティブに参加者と共に学び、目に見えない大切なもの、これまでにない視点や思考の枠を広げるヒントを提供する大人のためのトークイベントです。